赤いバラのように

ベルナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
赤いバラのように

【Ｎコード】
Ｎ２１４１Ｐ

【作者名】
ベルナ

【あらすじ】
酔っ払って帰った次の日の朝、ゴミ箱のなかに捨てたミリオンバンブーから声が…。
失恋した私へ植物から送られる温かいメッセージ。

人間は何度同じ過ちを繰り返すのだろう。
二日酔いの頭を抱えながら私は、もう酒は飲まないんだと悔んだ。

遅く起きた土曜日は、もちろんなんの予定もなく、ほこりっぽい雑然とした
部屋で、たばこを吸いながら、テレビを見ていた。
テレビも面白くないし、気持ちも悪いから、テレビを消して
またベッドに横になろうと、ふとんをもちあげた瞬間、声が聞こえた。

「これこれ、そこの若いの」
私は一人暮らしだ。
酔っ払って、知らない男性を連れ込んだことはさすがにない。

「こっちだ、こっちだ。若い女性が、失恋したからって、遅くまで飲んだくれるなんて
わしは感心せんなあ」

声は明らかに、ゴミ箱からしていた。
ゴミ箱には、枯らせてしまったミリオンバンブーが突っ込んであった。

「植物ひとつ満足に世話できんようじゃ、恋なんて１００年早いわ」

カアっと顔が赤くなった。
ふとんに頭からかぶり、がたがたと震えだす。
そんなはずはない、そんなはずはない…

枯れた植物がしゃべりだすなんて聞いたことない。
きっと酔っ払って、頭までおかしくなってしまったんだ。

「あんた、頭おかしくなってへんよ。まあ、頭悪いけどな」
「なにいってんのよ！」
思わず飛び起きてしまう。

「それと、しゃべってんの、植物ちゃうよ。わし、精霊さん。フェ・ア・リー」
なんだこいつ～。

「絶対うそ。だって精霊さんて、かわいいイメージだもん。こんなおっさん
みたいなイメージじゃないもん」
「おっさんて、失礼やなあ。せっかく恋の手ほどきをしてあげよ、思うてんのに」
「大きな御世話よ」

そのとき、携帯にメールが届いた。
「彼氏ちゃう？」

携帯を開いてみると、
タイトルは「わしや！」

「ふざけないで！」

腹がたって、携帯を投げようとしたが、フェアリーの、まあそういわんと読んでみて、という声がした。

「彼氏じゃなくてすまんな。でもこうでもしんと、あんたちゃんと

話きかん思うてな。
あんな、男女の仲って、１＋１は２じゃなくてええ。
０．２たす０．７ぐらいやと思ってたほうがうまくいく。
自分が１という完全さじゃない、不完全な人間だと気づいたら
あまり相手のことは責めずにすむんちゃうかな」

自分も相手も不完全。
不完全な人間だから、間違えたりするし、
お互いを許しあえる。

私はなにかを伝えたくて、ベッドから降り、ゴミ箱に近づいた。
そこには、なぜかもうミリオンバンブーはなくなっていて
代わりに赤いバラの花が一輪、入っていた。

フェアリーさん…？
声をかけてももう返答はなかった。
私はその赤いバラの花を、小さなグラスに挿して、テーブルの上に
置いてみた。
そして窓を開け、新しい空気を入れた。

赤いバラはもちろんしゃべらない。
でも、そこに咲いているだけで、うれしくなる。
私もそんなふうに生きたいと思った。

（完）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2141p/

赤いバラのように

2010年11月29日21時21分発行